

連携室たより

第 59 号

平成 25 年 10 月 1 日
出雲市姫原 4 丁目 1 番地 1
島根県立中央病院 地域医療連携室
医療連携・医療相談科

TEL 0853-30-6500
FAX 0853-30-6508



脳神経外科紹介

～島根県立中央病院の脳神経外科の役割～

脳神経外科部長 井川 房夫



島根県は東西に伸びた県であり、総合病院、医師は東に集中しております。西部の益田市、浜田市は医師数も少なく、特に益田市には脳神経外科医は不在で、神経内科医がカバーしている状況です。当院には島根県全体の脳卒中医療を担う使命があり、最後の砦としてドクターヘリの導入により受け入れ体制を整えております。脳梗塞は時間が早ければ治りうる病気であり、“ブレインアタック”という言葉が出て、久しくなりました。ただ、血栓溶解剤の点滴治療のみでは困難な症例もあり、その場合は血管内治療が必要となりますが、当院では3-4名の医師が血管内血栓溶解治療を行える体制を整えております。特に県西部では時間との戦いになるため、点滴治療を行いながらドクターヘリでの搬送（Drip and ship 療法）に依拠しております。

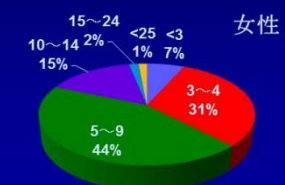
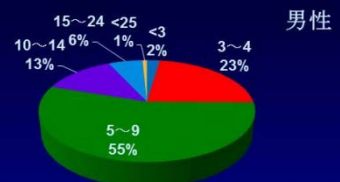
Conference Board of Canada 2012 Health Report Card

Health	Life expectancy	Infant mortality	Premature mortality	Mortality due to cancer	Mortality due to circulatory diseases	Mortality due to respiratory diseases	Mortality due to diabetes	Mortality due to musculo-skeletal system diseases	Mortality due to mental disorders	Infant mortality	Mortality due to medical misadventure
1 Japan	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
2 Switzerland	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
3 Italy	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
4 Norway	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
5 Finland	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
6 Sweden	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
7 France	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
8 Australia	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
9 Germany	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
10 Canada	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
11 Netherlands	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
12 Belgium	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
13 Austria	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
14 U.K.	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
15 Ireland	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
16 Denmark	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
17 U.S.	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D

Health Indicators: Japan: Aランク

破裂脳動脈瘤大きさ

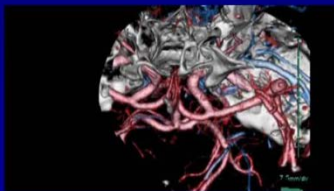
	女性	男性	総計
<3	23(6.7%)	3(2.3%)	26(5.5%)
3~4	107(31.1%)	30(22.9%)	137(28.8%)
5~9	150(43.6%)	72(54.9%)	222(46.7%)
10~14	53(15.4%)	17(13.0%)	70(14.7%)
15~24	6(1.7%)	8(6.1%)	14(2.9%)
>25	5(1.5%)	1(0.8%)	6(1.3%)
総計	344	131	475



日本の医療は世界的に評価されており、よい点を伸ばす必要があります。当院では伝統的に破裂脳動脈瘤に対し、積極的治療を行い、データを解析してまいりました。今後は、日本の若い脳神経外科医に治療を伝承することが使命と考え、学会でのセミナー活動や、動脈瘤治療の本を発売する予定としております。一方、外科治療においては予期せぬトラブルに遭遇することもあり、その時のリカバリー方法をデータベース化すべく、集積活動を行っております。

脳神経外科速報 脳動脈瘤シリーズ①
中大脳動脈瘤(MCA)のすべて
 シミュレーションで経験する手術・治療

【監修】 宝金清博 (北海道大学)
 【編集】 井川房夫 (島根県立中央病院)
 宮地 茂 (名古屋大学)
 【読者対象】 脳神経外科専門医および専門医をめざす医師
 【出版形態】 B5判/オールカラー/並製本/約240頁
 【刊行予定】 2014年2月 (予定)




<1章 中大脳動脈瘤概論>
 1. 中大脳動脈の血管解剖
 2. シルビウス静脈の解剖
 3. 中大脳動脈とシルビウス静脈の画像診断とシミュレーション
 4. 中大脳動脈瘤の疫学と特徴
 -A 破裂
 -B 未破裂

<2章 中大脳動脈瘤のクリッピング>
 1. 術前検査と術前シミュレーションのポイント
 2. 中大脳動脈瘤の分類
 3. 手術アプローチとシルビウス静脈の開放(distal/proximal)
 4. 中大脳動脈瘤の特徴とクリップの方法
 5. シミュレーションと手術の実験
 -A 長いM1タイプ
 -B 長いM1タイプ
 -C 短いM1上向きタイプ
 -D 短いM1下向きタイプ
 -E M1動脈瘤
 -F 広頭、血栓化、巨大
 -G 未破、その他

<3章 中大脳動脈瘤のクリッピング>
 1. 術前検査と術前シミュレーションのポイント
 2. 中大脳動脈瘤の分類
 3. 血管内治療のユイルの方法
 4. 中大脳動脈瘤の血管内治療のシミュレーション
 5. シミュレーションと治療の実験
 -A Simple
 -B 軸と突出方向がずれている瘤、不整形瘤
 -C 広頭(reversed branch)
 -D 広頭(terminal type)
 -E 巨大、血栓化

<4章 応用編>
 1. 中大脳動脈瘤のトランプシューティング(クリッピング編)
 2. 中大脳動脈瘤のトランプシューティング(クリッピング編)
 3. 巨大中大脳動脈瘤のトランプシューティング
 4. 複雑性、細菌性、その他の動脈瘤治療
 5. 血管内治療と手術のコラボレーション



失敗学 (リカバリー方法)

- 自分の経験 (失敗)
- 他人の経験 (失敗)

重要な経験は脳神経外科全体で共有すべき
 忘れられないように後輩へ伝えるべき
 データベース作成



文 献
 1) <http://www.youtube.com/user/AANSNeurosurgery>
 2) 畑村洋太郎：失敗学実践講義。講談社、2006
 3) 畑村洋太郎：だから失敗は起こる。NHK 出版、2007

地域医療連携室の活動状況

H25年6月～8月の紹介件数、ネット・FAX利用状況をお知らせします

紹介件数、ネット・FAX利用状況

	紹介件数	ネット・FAX利用状況 (内数)		
		まめネット	FAX 予約	
			診療	検査
平成 25 年 6 月	1,314	169	236	82
7 月	1,406	202	291	87
8 月	1,411	160	245	80

認定看護師の紹介コーナー



糖尿病看護認定看護師

外来 看護師 珍部 幸子



今年度より、糖尿病看護認定看護師として活動しております。糖尿病看護認定看護師とは、糖尿病による合併症の発症と進行を最小限にすることを目的し個々に合った療養支援を行う看護師です。糖尿病は、成人の4人に1人が糖尿病かその予備群であると言われていたほど多い疾患です。そのため、糖尿病でない方も含め、生活習慣病予防活動にも努めています。

私が現在行っている活動について紹介します。私は外来に所属しており、外来患者さんを中心に看護相談や糖尿病の方の足病変予防のためのフットケアを行っています。糖尿病は慢性疾患であり、療養は生涯続くものです。生活は、その人が日々作り上げていくものであり、他人が推測しコントロールするには限界があり、また他人がコントロール出来るものではありません。このような理由から、看護相談では、衣・食・住などの生活を考慮し、その人らしく無理なく継続出来るよう必要な情報提供を行い、患者さん自らが考え行動出来るよう支援しています。時には、人生の先輩であり、糖尿病の療養の工夫など教えていただける先生として、患者さんから教わることも多々あります。患者－看護師としての関係ではなく、糖尿病の療養について一緒に考えていける同志としての存在であり続けたいと考えています。

病院内における活動では、病棟と外来の糖尿病カンファレンスへの参加や糖尿病看護の勉強会開催などを行っています。入院中の患者さんは糖尿病の療養について考える時間が多いですが、退院後は地域に帰り、家庭・仕事・地域での役割などを担っています。そのため、医師・薬剤師・管理栄養士・MSWといった他職種と協働し、その方に合った最善のケアを話し合っています。また、CDE(糖尿病療養指導士)や糖尿病療養支援委員会のメンバーを通じ、糖尿病看護の質の向上に努めています。

認定看護師としてまだ活動を始

めたばかりですが、今後は、外来・入院中の患者さんの糖尿病の看護の質が向上するよう他の職員とともに日々研鑽を積み重ねていきたいと考えています。



病院ボランティア“ハーモニー”の紹介

ハーモニー 代表 米原 ゆきみ



患者さんと病院とボランティアが、良いハーモニーを奏でられる様にとの思いで名付けられた病院ボランティア“ハーモニー”です。開院と同時に発足し15年目に入りました。若草色のエプロンを着け、主に玄関ホールで患者さんに対応しています。

県内では病院ボランティアの先駆けとして、患者さんの声を届けられる隔月の連絡協議会や職員に準じた扱いの健康診断等の体制がきちんと確立されている事は、他の病院ボランティアの範となっていると思っています。また、病院と対等な立場で患者さんの立場に立った活動が出来る事は、私たちの誇りであり生きがいとなっています。

今後も患者さんに少しでも寄り添い、安心感を持って頂けるよう研鑽を積んで参ります。患者さんからの「ありがとう」の感謝の言葉、また、病院からの「なくてはならない存在」とのありがたい言葉を励みに、健康で活動が出来る事させて戴ける環境に感謝し、より良い“ハーモニー”を奏で続けたいと願っています。

**患者さんに安心と安らぎを感じていただく活動をしています
患者さんの立場に立って、優しく暖かな対応を心がけています**



入院患者さんの案内
受付機・支払機の操作介助



入院患者さんの案内



七夕笹飾り



ボランティアウィークの草取り



他病院のボランティアとの交流会



**こんな活動をして
います！**



診察時や車を待つ間の預かり



院内コンサートなどの援助



車椅子利用者の介助



ハーモニーの皆さん